

高効率な石油精製技術に係る研究開発支援事業

令和2年度概算要求額 **6.7億円（6.9億円）**

事業の内容

事業目的・概要

● 国内石油需要の減少やアジアにおける大型・輸出型製油所の台頭による国際競争の激化の中、将来にわたって石油を安定的に供給していくためには、コストの安い原油からの高付加価値製品の生産（石油のノーブル・ユース）など、石油製品の生産効率を高めることにより、原油の有効利用や調達原油の多角化（中東依存度の低減）を図っていくことが重要です。

● このため、以下の事業を実施します。

（高効率な石油精製技術の基礎となる石油の構造分析・反応解析等に係る研究開発委託費）

従来、組成が未解明のために処理が困難であった重質油について、分子レベルで組成を科学的に解明し、精製プロセスにおける化学反応を解析・予測する技術（ペトロリオミクス技術）を活用して、付加価値の高い石油製品や石油化学製品を効率的に生産する基盤技術の研究開発を委託します。

（高効率な石油精製技術に係る研究開発支援事業費補助金）

付加価値の高い化学製品を効率的に生産する技術や、低廉な重質原油を用いて石油製品を効率的かつ安定的に生産する技術のうち、大きな効果が見込めるものの技術的な難易度が高い技術の開発（石油製品の新たな製造プロセスの確立など）を支援します。

成果目標

● 平成28年度から令和2年度までの事業であり、委託費では、令和2年度までに、国内製油所に適した重質原油と軽質原油の混合方法を15件確立すること等を目指します。

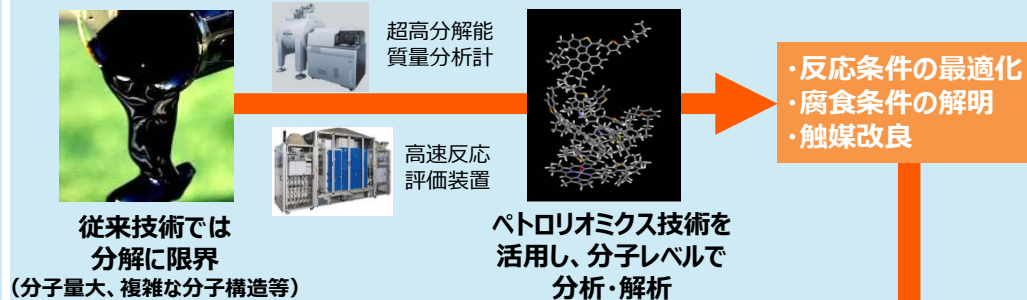
● また、補助金では、RDS触媒の改良やそれに合わせたRFCC反応制御技術の開発による製品得率向上、高硫黄重油低減などを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

基盤技術開発（非在来型、重質原油、残渣油等の性状解明） ※委託事業



稼働信頼性向上
精製設備の稼働を長期間安定

石油のノーブル・ユース
付加価値の高い石油製品や石油化学製品を効率的に生産

実証化に向けた技術開発（例） ※補助事業

